



れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令和2年2月号

学校教育目標
キャッチフレーズ
ホームページ

【知】友と学ぶ子 【徳】心の豊かな子 【体】体をきたえる子
「はきはき・にこにこ・きびきび」
<https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/>

児童数375人

「長縄跳び」のコツ

校長 清水 励

大寒を過ぎ、今年は全国的な暖冬といわれるものの、寒さが厳しく感じられる日が続いております。また、今後はインフルエンザの流行が懸念されますので、お子さんの健康管理はもとより、皆様自身の健康管理にも御注意され、どうぞ御自愛ください。

さて、学校では、「長縄跳び」に取り組んでいます。学級ごとに3分間で何回跳べるかに挑戦するもので、朝の「熱中タイム」では「記録会」を行っています。「長縄跳び」は、子供たちが体験を通してたくさんのが学べる、とても優れた種目（教材）です。「物事の努力の仕方」「友だちへの思いやり」「体力・集中力」…。私も学級担任の後半の数年間、この「長縄跳び」を学級の子供たちと一生懸命に取り組んできました。努力の成果として目標を達成したあの瞬間、本気で努力しないと到達できない領域に学級全員で到達したあの瞬間、何十万回も練習した成果をたった数分間の本番にかけけるあの瞬間…。練習しても記録が伸びずに悩むことは必ずありましたが、子供たちの本気で頑張る姿や子供たちとあげた歓喜の叫びなど、キラキラした思い出として今でも鮮明に覚えています。

その当時、知り合いのある教員（市外小学校のA先生）と、それぞれの学級の「長縄跳び」を撮影したビデオを見合って分析し、跳び方や並び方、練習方法などについて、夜な夜な熱く語り合う日々を過ごしました。A先生の学校は、全校で年間を通して継続的に「長縄跳び」に取り組んでいる学校でした。そして、A先生は、担任した学級で市や県の最高記録を出したり、学年での取組では世界ギネス記録に認定される「1分間で213回」という記録を出したりするほど、「長縄跳び」の指導に長けた学級担任でした。A先生とは、埼玉県大会で顔を合わせることもありましたが、A先生の学級は断トツで優勝、私の学級は6位入賞などで、A先生の学級には全く敵いませんでした。（6位入賞も十分立派だと思っています。）

当時、「長縄跳びのコツは何？」とか「他のクラスにもコツを教えてあげなよ。」とか、管理職や同僚の先生から「長縄跳びのコツ」について聞かれることがしばしばありました。けれども、その答え、「長縄跳びのコツ」は一つだけだと思っています。「**長縄跳びのコツは『努力』あるのみ**」です。これはとても不親切な答えに聞こえるかもしれませんが、もちろん跳び方や並び方にちょっとしたやり方があります。けれども、そんなやり方は「努力」をすればいくらでも自分たちで発見できます。A先生も言っていましたが、自分たちの目標達成とそのために繰り返す日々の練習を信じて、ひたむきに「努力し続けること」が、唯一無二の「長縄跳びのコツ」であり、そこには安易な近道はありません。

世界ギネス記録に認定されるまで子供たちを高めたA先生ですが、体育指導が専門というわけではありません。実は「長縄跳び」を始めた頃のA先生は、全く「長縄跳び」についての知識や経験がなく、子供たちを縄の回す方向と反対方向（迎え縄）に子供たちを入れて跳ばせて練習してしまうほど、「長縄跳び」を知りませんでした。そんなA先生が、数年後には、担任する学級を世界トップレベルの「長縄跳び」ができるようにするほどの学級担任になったということ。これは、「**長縄跳びのコツは『努力』あるのみ**」ということを証明する他の何物でもないと思っています。そして、このことは多くの教育活動に通じるものであり、子供たちの学び方や学ぶ過程を重視する今だからこそ、より一層大切にすべきことと感じております。

子供たちのよりよき成長のために、学校・家庭・地域では様々な教育的活動が行われています。それらの根幹となるものは、やはり子供たちを導く私たち大人の「情熱」であり、子供たちを信じ続ける「愛情」なのではないでしょうか。今年度もまとめの時期となりましたが、今後とも引き続き、皆様の御理解、御支援と御協力をいただきながら、すべての子供たちのよりよき成長を目指してまいりたいと思います。